

藤沢市学校部活動の地域連携・地域移行の方向性及び計画（案）

1 これまでの経緯

現在、管理運営団体が各地域団体の統括を担わせることを想定して様々な調整を行っているところである。

事務局としては、協議会や専門部会の運営、モデル実証、各種情報交換等、本事業を進める中で得た知見があるが、一方で、各校においては、大会引率や大会運営等の指導教員の負担、指導者確保の課題等から、近い将来、現在の形態での学校部活動が継続困難になることも視野に入れなければならない状況である。

これらのことを踏まえ、将来的な目標としては、県が示す地域移行モデル図－「地域スポーツ団体等運営型－体育・スポーツ協会運営型」を見据えつつも、市教委が担う目標・業務内容（計画）を今一度整理し、市長部局及び関係団体等と連携しながら円滑で地に足の着いた地域連携・地域移行について、新たな取組を行うこととした。

2 これまでの計画の見直しと新たな取組

＜令和5年度の取組＞

- ・管理運営団体が学校部活動の受け皿となる地域指導団体を統括すること想定し、休日の活動について3つのモデル実証を行っている。

滝の沢中学校陸上競技部（みらい創造財団の管理下で藤沢ACが指導）

高浜中学校サッカー部（総合型地域スポーツクラブゴールデンアカデミーが管理・指導）

湘南台中学校吹奏楽部（保護者会の管理下で部活動指導員が指導）→実施せず

＜新たな取組＞

- ◎これまでの計画（令和6年度は各中学校で1つモデル実証を行うこと）を見直し、**拠点校型学校部活動**を主軸に本市の部活動地域連携・移行に取り組んでいくこととした。

3. 今後の方向性・目標等

【第1ステップ（地域連携）】＝市教育委員会が主導して整備すること

- ◎現在の部活動数を、拠点校型方式で絞り、絞った拠点校型「学校部活動」と地域人材をより多く紐づけ、第2ステップ（今後市長部局と調整予定）へ円滑につなげる。

（※地域人材：現在の「外部指導者」と同等の条件の有償ボランティアを想定）

【第2ステップ（地域移行）】（今後市長部局と調整予定）

- ◎休日の学校部活動をすべて廃止するとともに、新たに「地域クラブ活動」を開始し、社会教育の視点から持続可能な藤沢市の中学生のスポーツ・文化芸術環境を整備する。

※市教委は、平日の部活動の地域移行について環境整備等研究を進める。

【令和6年度】

○休日の活動について、以下20ケース（調整中）の取組を行う。

地域移行 * 休日は地域クラブ化する

☆管理運営団体が地域人材を試験的に休日の地域クラブに紐づける 3ケース
（今年度滝の沢と高浜で行っているモデル実証の様な内容）

地域連携 * 休日も学校部活動として行う

□管理運営団体が地域人材を試験的に学校部活動に紐づける 2ケース
（部活動外部指導者とは異なる地域人材の新たな活用）

◇拠点校型学校部活動（軟式野球）を9新設（令和6年度夏総体後開始）

◆拠点校型学校部活動（ソフトボール）を6新設（令和6年度夏総体後開始）

○管理運営団体に「地域指導者」の掘り起こしや総数の把握など、「指導者」に関する業務を委託する。

○令和7年度に新たに開始する拠点校型学校部活動の調整と準備を進める。

- ・ 中体連と情報共有し、大会運営等の動向をつかむ
- ・ 吹奏楽については、「(仮)吹奏楽専門部会」担当校長と情報共有しながら、地域移行を見据えた合同練習等が可能か、活動の動向や課題をつかむ。
- ・ 企業、プロスポーツチーム、サークル等と広域的且つスポット的な地域クラブ活動についての情報収集及び情報提供を行う。

【令和7年度（以降）】 * 条件が整った段階で

○夏総体後、拠点校型学校部活動を運動部全種目で開始する。

○吹奏楽の拠点校型学校部活動は、10月以降の開始とする。

○6月頃、兼職兼業制度を教員に周知し、休日の指導を希望する教員の把握を行う。

○地域指導者として地域人材を段階的に拠点校型部活動に紐づける。

- ・ 企業、プロスポーツチーム、サークル等との連携により、広域的且つスポット的な地域クラブ活動についての情報収集及び情報提供を行う。



令和X年度以降

市長部局

第2ステップ（地域移行）へ